TYPE 505
GROUP 0/1

前向き装着
体重10kg～体重18kg

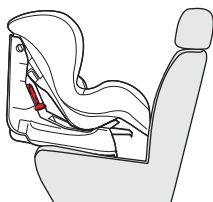
後向き装着
新生児～体重10kg

取扱説明書(保証書付)

ECE R44/04

3点式シートベルト専用
本書は常に車検証と一緒に車内に保管してください
エアバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります

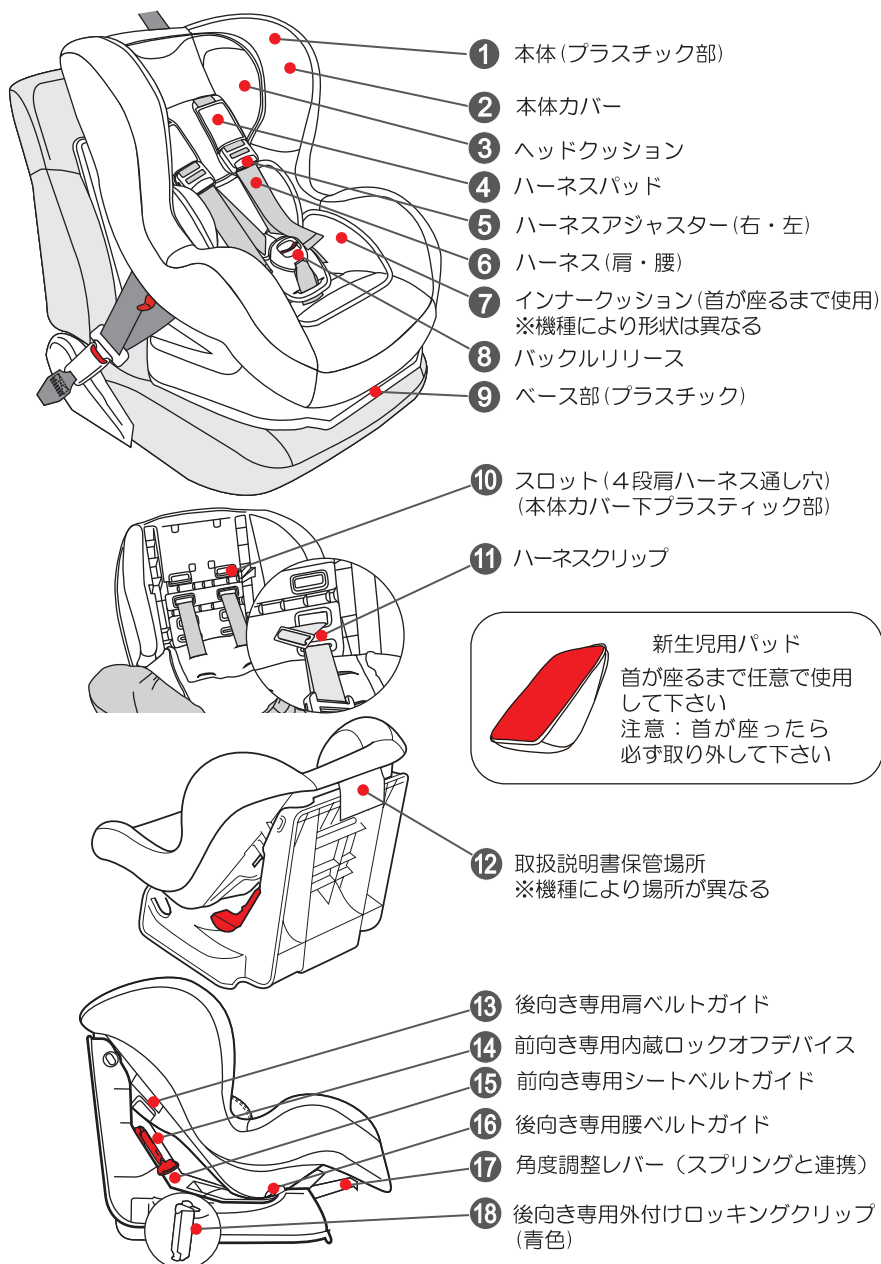
目次

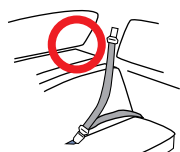
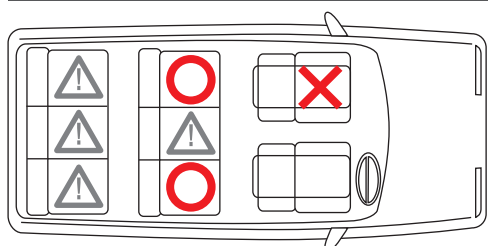
はじめに

後向き（新生児～10kg）

前向き（10kg～18kg）

＊は前向き・後向き共通

インフォメーション

●各部名称

注意！予告なしにデザイン・仕様変更などございますのでご了承ください。

●取付け可能な場所

3点式シートベルト

2点式シートベルト

2列目中央・3列目左右・中央席は3点式ベルトで座席幅が40cm以上ある場合に限り装着可能です。チャイルドシート装着に関しては必ず車のオーナーズマニュアルの記載に従ってください。

注意！ エアバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります。

●車のシートベルトの注意事項

※シートベルトの種類によって取付けできない場合があります。ご使用のお車のオーナーズマニュアル、ならびに下記表を参照の上ご確認ください。

シートベルトの種類	特徴	取付けにあたっての注意
ＥＬＲ付 シートベルト	通常はベルトの長さ調整が自由にでき、ベルトに瞬間的に大きな力が加わった時に長さの調整がロックする機能をもったもの。	取扱説明書に従って、取付けを行ってください。
Ａ－ＥＬＲ付 シートベルト （チャイルドシート固定機能付）	ＥＬＲの機能に加えて、ベルトを最大に引き出すことでベルトの長さ調整機能がロックされ、巻き戻す方向のみ調整できる機能をもったもの。	本製品取付け時にシートベルトのロック機能を作動させてください。
ＡＬＲ付 シートベルト	一度ベルトを引き出したところまででシートベルトの長さ調整機能がロックされ、ベルトを巻き戻す方向のみ調整できる機能をもったもの。	取付けに必要な長さを引き出し、本製品の取付けを行います。
マニュアル式 シートベルト	車体側にシートベルトを格納する機能が無く、ベルト全長が露出しているもの。	取付けに必要な長さを引き出し、本製品の取付けを行います。
オートマティック式 シートベルト	ドアの開閉で自動的にシートベルトが装着されるもの。	本製品を固定することが出来ないため、使用できません。

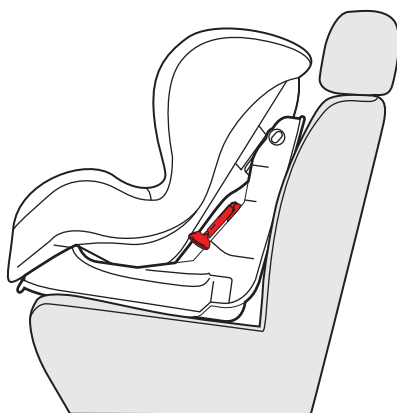
ご使用のお車のシートベルトの種類が不明な場合は各自動車メーカーにお問合わせください。

●装着方法（前向き・後向きのコンセプト）

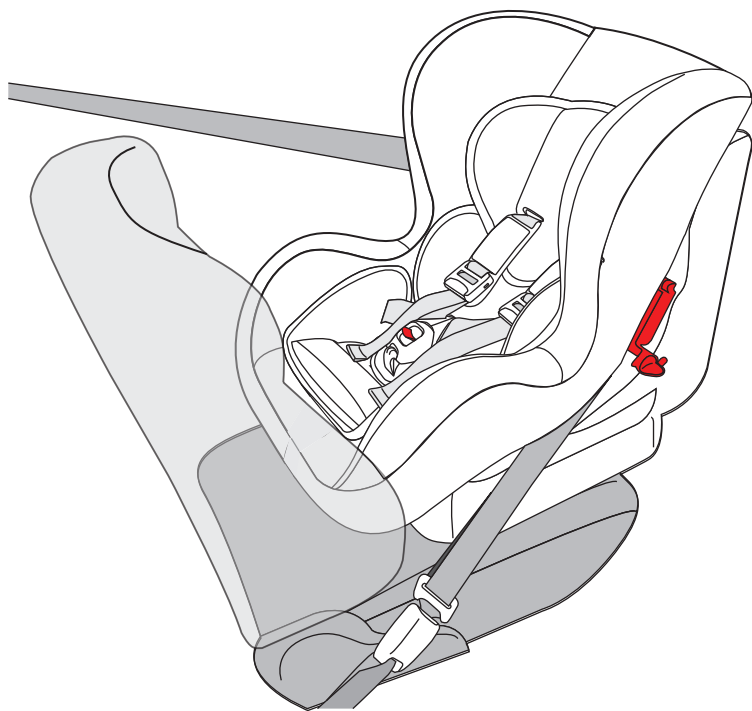
後向き装着
新生児～体重10kg

背もたれ角度を約45度にする
ために首がすわるまで新生児用
パッドを任意で使用。
P.7参照

エアバック装備の助手席への装着は絶対にしないでください。
体重制限ぎりぎりまで（体重10kg）後向き装着をおすすめします。

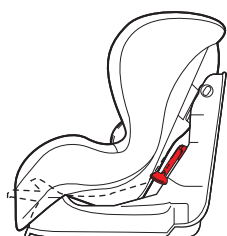
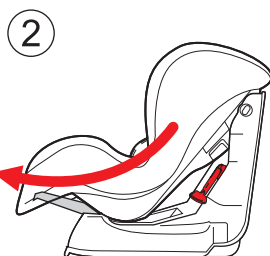
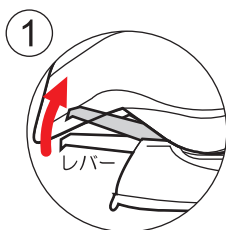
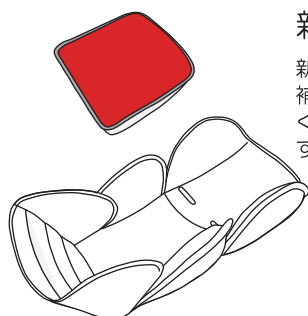
前向き装着
体重10kg～体重18kg

エアバック装備の助手席への装着は絶対にしないでください。
少なくとも1歳をすぎ、体重10kgを超えるまでは後向き装着に
しなければなりません。

※当製品においては、より高い安全性を考慮した場合、少なくとも1歳を超え、
体重10kgになるまでの子どもは後向き装着にすることをおすすめします。

後向き装着

新生児〜体重10kg

注意！ エアバッグ装備の座席では使用しないでください。死亡または重傷を負うおそれがあります。

●後向き装着の前に（新生児～体重10kg）

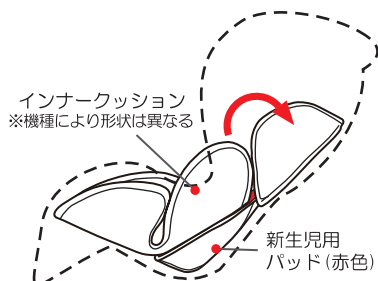
1歳までの乳児は車内では後向き装着で守るべきです。少なくとも1歳をすぎ、体重10kgに満たないようであれば、後向き装着でご利用ください。

垂直の位置から角度調整レバーを使って本体をねかせます。

① 角度調整レバーをしっかりと押し上げ、
② 本体部分を完全に一番前まで引き出します。

※機種により形状は異なる

新生児用パッド（赤色）

新生児用バッドは背もたれ角度を調整するための新生児専用補助部品です。車のシートに傾斜がある場合、任意で使用してください。生後6か月頃（首がすわる）まで使用できます。首がすわったら、必ず取り外してください。

インナークッション（後向き専用）

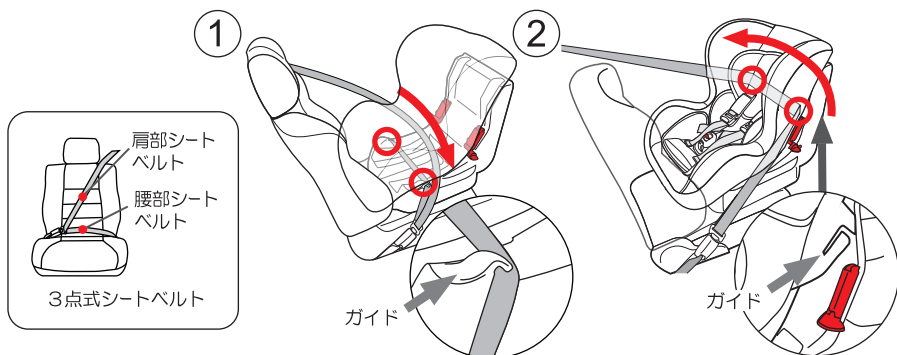
インナークッションは小さい子どもが安定した状態でチャイルドシートに座れるようにするための後向き専用補助部品です。首がすわるまでまたは、窮屈になるまで使用できます。前向き装着時は使用しないでください。

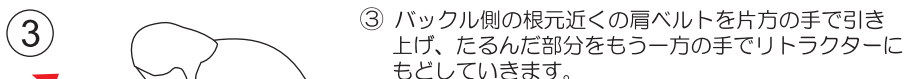
パッドとインナークッションの使用方法

新生児用パッドは本体の背もたれ下部、インナークッションはその上に取り付けます。

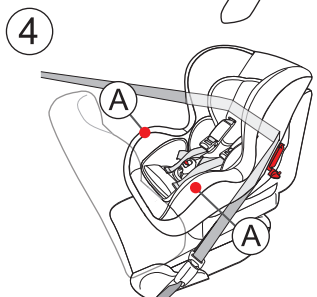
ヘッドクッションは新生児用パッドとインナークッションのなるべく下にしてください。
子どもの首がすわったら、必ず、新生児用パッドは取り外します。

子どもの首がすわる、またチャイルドシートが窮屈になる、あるいは体重6kgを超える等になったとき、インナークッションは外してください。

新生児用パッドならびにインナークッションは体重6kgを超えた子どもに使用しないでください。当製品は後向きで体重10kgまで使用いただけますが、新生児用パッドならびにインナークッションは条件を満たした場合に、はずしていただくこととなりますので、ご注意ください。

●後向きでの取付け方（新生児～体重10kg）

① 腰ベルトをベース部にある後向き専用ベルトガイド（左右）に通します。

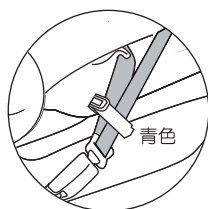
② 肩ベルトを本体にある後向き専用ベルトガイド（左右）に通します。

③ バックル側の根元近くの肩ベルトを片方の手で引き上げ、たるんだ部分をもう一方の手でリトラクターにもどしていきます。

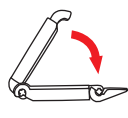
注意：チャイルドシートを持ち上げないように！
ヒント：ベース部分を体の前面で押しながら締付けるとスムーズです。

④ 締付けの確認はチャイルドシートの左右のⒶの位置を両手で持って左右にゆらします。ゆるい場合には再度締付けを行ってください。

注意！A/ELR式シートベルトの場合、締付け後に、シートベルトを最後まで引き出し、ロックをかけてください。（ページ4参照）

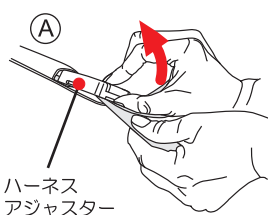
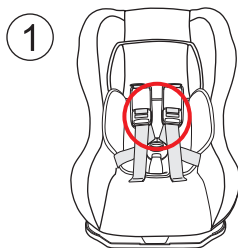
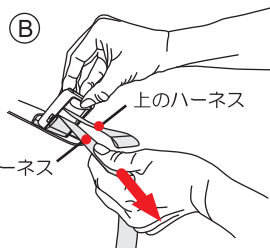
ONE POINT ！ 車の座席にリクライニング機能がある場合は、装着前にリクライニングをやや倒していただき、しっかりと装着した後、リクライニングを起こしてください。よりしっかりと装着ができます。

装着前
やや倒す

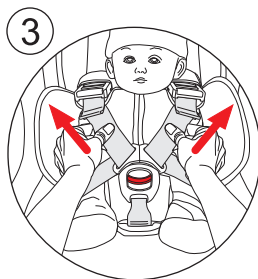
装着後
起こす

ロッキングクリップの使用方法

シートベルト本体にロック機能がない場合、または締付けチェックをしてゆるい場合には外付けロッキングクリップをバックル側から3cmくらい上の所に腰ベルトと肩ベルトを重ねて挟み込んでください。

閉じる

ロックする

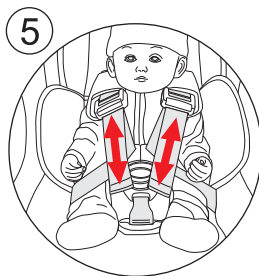
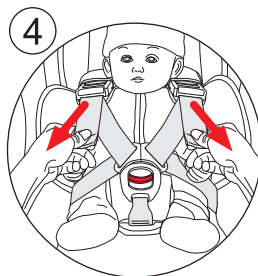
●後向き装着（肩ハーネスの正しい使用方法）

① 子どもを乗せやすいようにハーネスを緩めます。図Aのようにハーネスアジャスターを上に持ち上げ、図Bのように下のハーネスを引いてください。

② 子どもを深く座らせます。肩ハーネスは子どもに合ったハーネススロットから出してセットしておいてください。
（ページ17参照）
タングは左右ともにバックルにはめます。（カチッと音がします）タングをリリースした際、５回アラームが鳴ります。注意：リリース状態中バックルとタングが近づくとセンサーが作動し、アラームが鳴ることがあります。

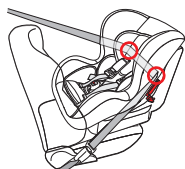
③ 肩パッド下あたりを両手でひきあげ、ハーネスが子どもの腿の付け根（腰部）にぴったりと締付けられているかを確認します。

④ 上のハーネスを左右ともに引いてください。緑のバーは正しい締め付けの目安です。

注意：子どもの動き方で緑のバーが消えることがあります。その都度、②③④の作業を繰り返し、ハーネスの締め付け確認を行ってください。

⑤ 上のハーネスが左右ともに同じ位の長さになるよう確認してください。

⑥ 締付けの目安は、指一本が肩ハーネスと鎖骨の間に入るくらいです。ハーネスがゆるい場合には③④を繰り返してください。締付けがきつすぎた場合、①の作業から再度行ってください。

●後向き装着の正しい装着チェック

注意！

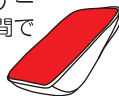
肩ベルトを本体にある後向き専用ベルトガイド(左右)２ヶ所に通します。

リフトバックについて

シートベルトがやや短い場合、チャイルドシート本体を座席背もたれ側にやや起こした状態で肩ベルトをベルトガイドに通してから元の位置に戻してください。

⑩ A/ELR式のシートベルトの場合は、ロックをかけましたか？(P. 4, P. 8参照)

① エアバック装備の助手席への装着はしていませんか？(P. 18 Q1. 参照)

AIRBAG

⑧ ハーネススロットの位置は肩の高さになっていますか？(P. 16, P. 17参照)

② 本体を一番倒した角度になっていますか？(P. 7上段参照)

⑦ チャイルドシートはきつく付けられましたか？(P. 8, 9参照)

③ ハーネスはきちんと締付けていますか？(指一本)(P. 9, P. 16参照)

⑥ 車内の整頓はできていますか？硬いもの、とがった物、われものなどは固定していますか。

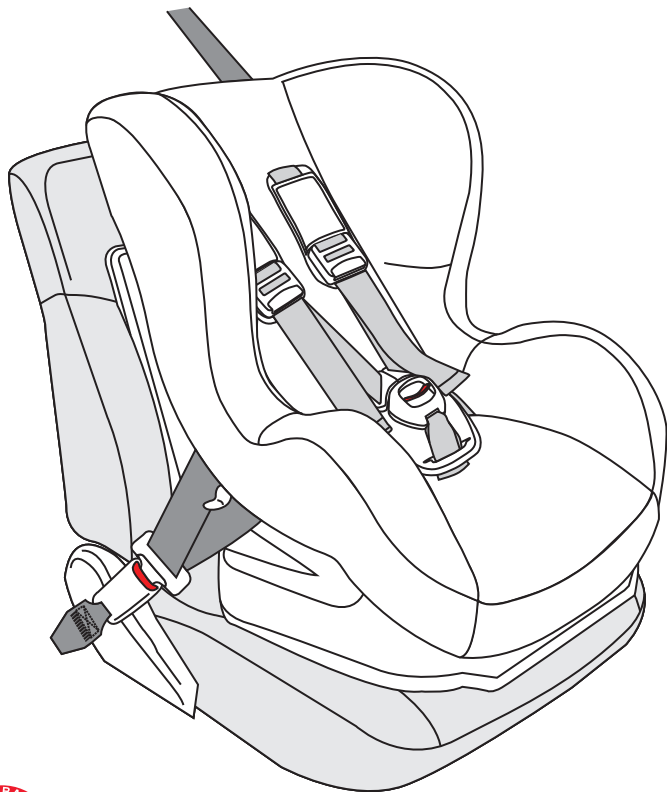
④ 新生児用パッド・インナークッションは正しい期間で使っていますか？(P. 7中下段参照)

⑤ ベルトガイドはすべて正しくベルトを通していますか？(P. 8参照)

子どもは薄着ですか？
厚着の場合、衝突時に肩ハーネスと子どもの間に隙間ができ、危険を及ぼす場合があります。コート・ブランケットは肩ハーネスを締めた上から掛けてください。

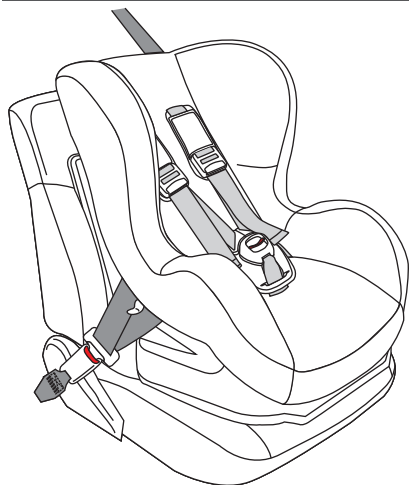
子どもの首がすわるまでなるべく保護者が後部座席で子どもの様子をモニターすることをお薦めします。

車内でお菓子などを食べた場合、その破片がバックルに入り込むと動作不良を起こしかねません。定期的にチャイルドシートならびにバックル内をきれいにし、ゴミなどがたまらないように清潔に保つよう心掛けてください。

前向き装着

体重10kg～18kg

エアバック装備の助手席への装着は絶対にしないでください。体重10kgまでは後向き装着をしてください。

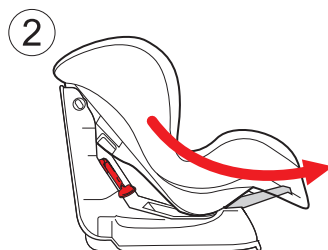
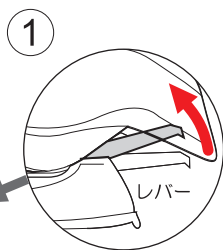
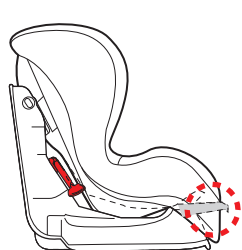
一番安全な装着位置は後部座席です。乗用車は後部座席、3列車であれば、2列目です。エアバック装備の助手席への装着は絶対にしないでください。

●前向き装着時の注意（体重10kg～18kg）

必ずお読み下さい。

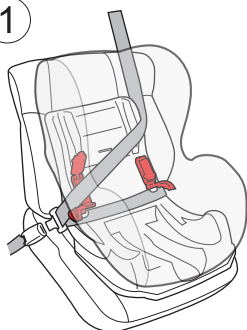
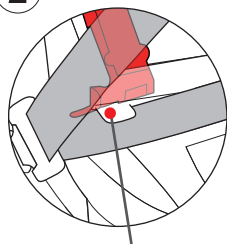
① チャイルドシートは必ず角度調整レバーを使って、一番起こした状態（垂直）にしてください。
② インナークッションをはずしてください。
③ 新生児用パッドは必ずはずしてください。

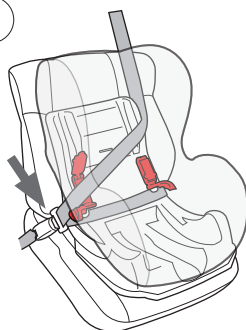
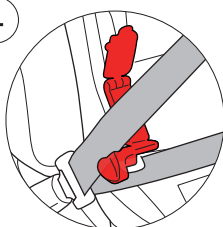
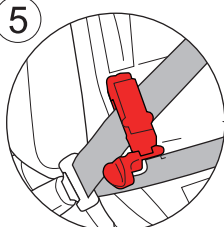
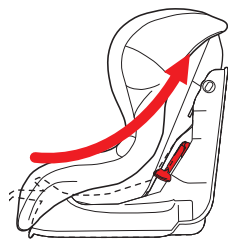
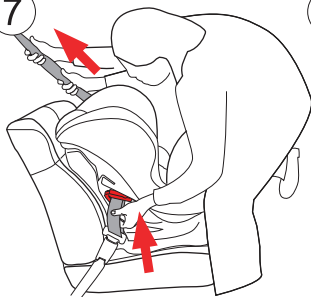
注意：
インナークッションは必ずはずしてください。はずすと、子どもはさらにチャイルドシートに深く座れ、背もたれ角度も垂直状態になるので、前面衝突に対して衝撃力を分散する効果が高くなります。
※車の座席のヘッドレストについて
車の座席への装着時、万一ヘッドレストが干渉する場合は、とりはずして安全な場所に保管してください。

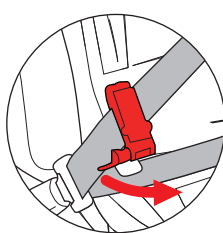
●前向き装着の前に（体重10kg～18kg）

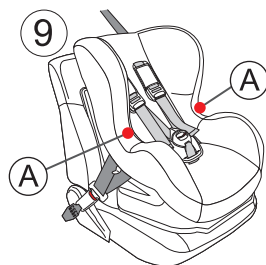
1歳までの乳児は車内では後向き装着で守るべきです。少なくとも1歳をすぎ、体重10kgに満たないようであれば、後向き装着でご利用ください。

垂直の位置から角度調整レバーを使って本体をねかせます。

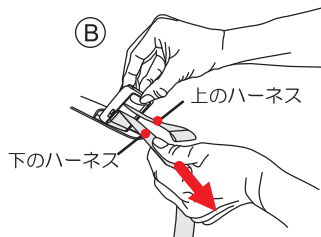
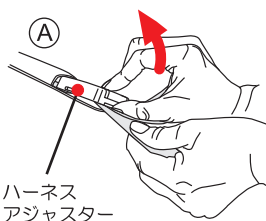
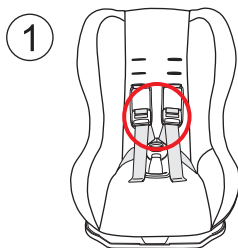
① 角度調整レバーをしっかりと押し上げ、
② 本体部分を完全に一番前まで引き出します。

●前向き装着での取付け方(体重10kg〜18kg)

① シートベルトを本体とベースの間に通します。

② 腰ベルトをベース部の左右前向き専用ガイドに通します。

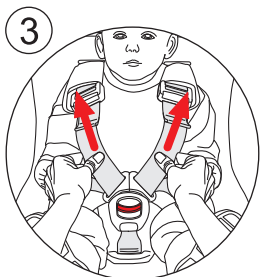
③ バックルをはめます。

④ 肩ベルトをバックル側にある赤い前向き専用ロックオフデバイスに挟みます。

⑤ ロックオフデバイスは図のように半とじ(ロックをしない)状態にしてください。

⑥ 角度調整レバーを引いて、本体を垂直状態に戻します。

⑦ チャイルドシートの上から体重をかけ、バックル側の肩ベルトの折り返し部分を上方面に引きあげて、もう一方の手でたるんだ車のシートベルトをリトラクターに戻します。

注意：引きあげたベルトのテンションをゆるめないように両手で調整してください。

⑧ 肩ベルトをゆるめずに半とじ状態になっている赤い前向き専用ロックオフデバイスのレバーをあげてロックします。

注意:車のシートベルトの種類がA/ELR式の場合①〜⑧の後、車のシートベルトをすべて引出しロックをかけてください。(P.4参照)

⑨ 締付けが終了したら、両手でベース部分のシートベルトがとまっている辺りA部分を持ち、左右水平にゆらし、次に回転するかの確認をしてください。正しい装着をしていれば、抵抗感があり、車体が連動してゆれます。

●前向き装着（肩ハーネスの正しい使用方法）

① 子どもを乗せやすいようにハーネスを緩めます。図Aのようにハーネスアジャスターを上に持ち上げ、図Bのように下のハーネスを引いてください。

② 子どもを深く座らせます。肩ハーネスは子どもに合ったハーネススロットから出してセットしておいてください。（ページ17参照）タングは左右ともにバックルにはめます。（カチッと音がします）タングをリリースした際、5回アラームが鳴ります。注意：リリース状態中バックルとタングが近づくとセンサーが作動し、アラームが鳴ることがあります。

③ 肩パッド下あたりを両手でひきあげ、ハーネスが子どもの腿の付け根（腰部）にぴったりと締付けられているかを確認します。

④ 上のハーネスを左右ともに引いてください。緑のバーは正しい締め付けの目安です。

注意：子どもの動き方で緑のバーが消えることがあります。その都度、②③④の作業を繰り返し、ハーネスの締め付け確認を行ってください。

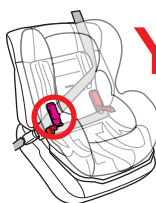
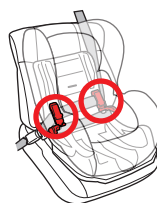
⑤ 上のハーネスが左右ともに同じ位の長さになるよう確認してください。

⑥ 締付けの目安は、指一本が肩ハーネスと鎖骨の間に入るくらいです。ハーネスがゆるい場合には③④を繰り返してください。締付けがきつすぎた場合、①の作業から再度行ってください。

前向き

●前向き装着の正しい装着チェック

注意！

ロックオフデバイスはバックル側
１ケ所だけ通します。２ヶ所は通
さないので注意してください。

① A/ELR式のシートベルトの場合は、
ロックをかけましたか？
(P.4　P.13参照)

② 新生児用パッド・インナークッションを
はずしていますか？(P.12上段参照)

③ ハーネススロットの位置は肩の
高さになっていますか？
(P.14,P.17参照)

④ ハーネスはきちんと
締付けていますか？
(指一本)
(P.14,P.16参照)

⑤ エアバック装備の
助手席への装着は
していませんか？
(P.18 Q1.参照)

AIRBAG

⑥ チャイルドシートはきつく
締付けられましたか？
(P.13⑨参照)

⑦ 車内の整頓はできていますか？
硬いもの、とがった物、われものなどは固定していますか。

⑧ ベルトガイドはすべて
正しくベルトを通して
いますか？(P.13参照)

⑨ 本体を一番起こした
(垂直)状態になって
いますか？
(P.13⑥参照)

⚠ 子どもは薄着ですか？
厚着の場合、衝突時に肩ハーネスと子どもの間に隙間ができ、危険を及ぼす場合が
あります。コート・ブランケットは肩ハーネスを締めた上から掛けてください。

⚠ 車内でお菓子などを食べた場合、その破片がバックルに入り込むと動作不良を起こ
しかねません。定期的にチャイルドシートならびにバックル内をきれいにし、ゴミ
などがたまらないように清潔に保つよう心掛けてください。

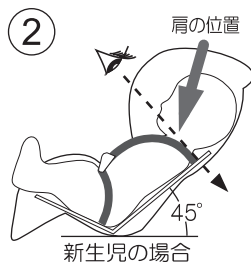
●肩ハーネスの正しい使用方法

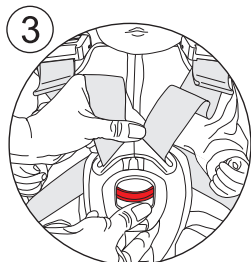
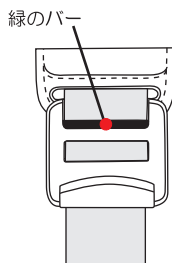
万一の衝突時に車内で子どもを守るために一番大切なことは正しくチャイルドシートを装着することで、次に大切なことは、チャイドシートの中に子どもを正しく座らせ、しっかりとハーネスで締付けをすることです。多くの保護者はこのことを忘れているようです。

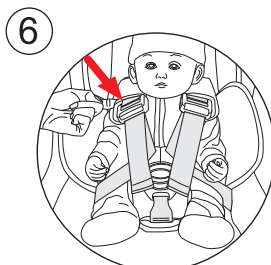
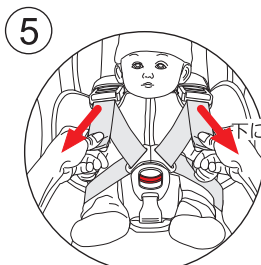
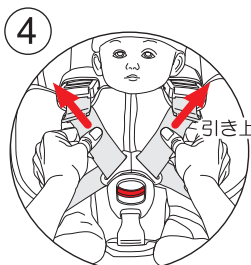
肩ハーネスは車が移動している時にはいつでも子どもをしっかりと正しく締付けておく必要があります。子どもの服装は部屋着程度が望ましく、厚着をしてはいけません。寒い季節には、子どもに肩ハーネスを締付けた上から毛布やタオルをかけてください。チャイルドシートの中にいる子どもに厚着をさせてしまいますと、肩ハーネスを正しく締付けられなくなります。

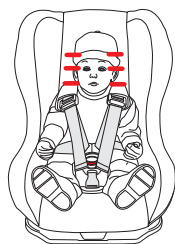
① 子どもを深く座らせます。肩ハーネスは子どもに合ったハーネススロットから出してセットしておいてください。(P. 17参照)

② 新生児の場合：首がすわるまでは必要に応じて新生児用パッドを使い、背もたれ角度を地面(水平)に対して45度ぐらいにしてください。

③ タングは左右ともにバックルにはめます。(カチッと音がします)タングをリリースした際、５回アラームが鳴ります。
注意：リリース状態中バックルとタングが近づくとセンサーが作動し、アラームが鳴ることがあります。

④ 肩パッド下あたりを両手でひきあげ、ハーネスが子どもの腿の付け根(腰部)にぴったりと締付けられているかを確認します。

⑤ 上のハーネスを左右ともに引いてください。緑のバーは正しい締め付けの目安です。上のハーネスが左右ともに同じ位の長さになるよう確認してください。

⑥ 締付けの目安は、指一本が肩ハーネスと鎖骨の間に入るくらいです。ハーネスがゆるい場合には④⑤を繰り返してください。
締付けがきつすぎた場合、ハーネスアジャスターを上にあげてハーネスをゆるめてやり直してください。(P. 9参照)

最初からきつくしますと圧迫感があり子どもが嫌がるかもしれません。少しずつゆっくりと正しい締付けに慣らしてください。

●ハーネススロットの変更

この製品では、後向き装着時にスロット3またはスロット4を使い、前向き装着時にスロット1またはスロット2を使います。お子様の成長に合わせてスロットの高さを変更してください。

肩ハーネスの正しい高さ

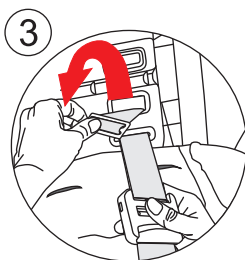
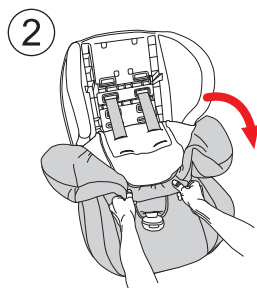
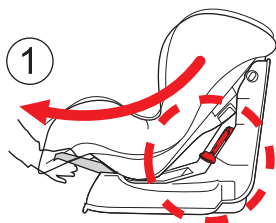
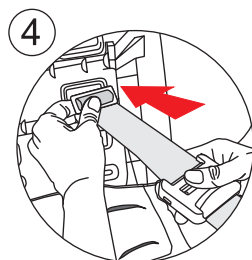
肩ハーネスの高さですが、お子様の肩の高さが一番理想です。肩の高さに合わせてハーネススロットの位置を次の説明に従って調整してください。

肩ハーネスの高さの調整方法

① 角度調整レバーを引いて、ベース部と本体の背もたれ間にすきまを作ります。

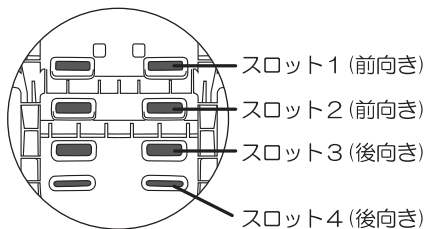
② チャイルドシートのカバーの上部を図のようにめくってください。

③ 後向き装着時：ハーネスクリップをお子様の肩の高さに合うスロット（スロット3または4）に対して斜めにし、前から後ろに押し抜きます。次にひとつ上のスロットの後から前に引き出します。

④ 前向き装着時：ハーネスクリップをお子様の肩の高さに合うスロット（スロット1または2）に対して斜めに差し込みます。

（後向き）

（前向き）

ONE POINT!

後向き装着時：ハーネスを差し込むスロットのひとつ上のスロットからハーネスクリップが出てきます。
例：スロット3にハーネスを通す場合、ハーネスクリップはスロット2から出します。

注意：スロット４にハーネスを通した場合で、もしハーネスが長すぎるという場合には、スロット3ではなくスロット2にハーネスクリップを出すことも可能です。

※スロットの形状・大きさは機種により異なる

前向き装着時：お子様の肩の高さに合うハーネススロットに前から後ろにハーネスクリップを差し込むだけです。スロット1またはスロット2のみを使うことになり、ハーネスクリップを別のスロットから出すことはしないのでご注意ください。

前向き・後向き

●よくあるQ&A

1.なぜチャイルドシートをエアバック装備の助手席に装着してはいけないのですか？
エアバックは時速200km～300kmのスピードで一瞬にふくらみます。子どもやチャイルドシートは、エアバックの作動範囲に入ってしまう危険があります。チャイルドシートを後部座席に設置すれば、死亡・重軽傷率が40%減少するというデータもあります。エアバック装備の助手席には絶対に設置しないでください。

Q2.もう子どもの首がすわっているので、前向きにしてよいのですか？
子どもの首がすわったとしても完璧に体ができあがっているわけではありません。米国小児科学会のガイドラインならびに日本小児科学会からの提言でも少なくとも1歳、体重10kgになるまでは後向きで守ることが提唱されています。

Q3.出産後の退院時も、チャイルドシートを使わないといけないのですか？
車で移動するときには、必ずチャイルドシートを使わなければなりません。可能であれば、車に乗せる前に、お部屋の中でチャイルドシートの中に子どもを乗せて様子を観察してみてください。徐々に慣れてくるはずです。初めは泣くかもしれませんが、保護者の方が根負けせずに、妥協せずに、根気強く子どもが慣れるのを見守ってください。

Q4.チャイルドシートに子どもを乗せてよい時間というのはありますか？
乳児、特に新生児はなるべく車に乗せないことです。しかし車に乗せなければならない場合は、休憩なしの遠乗りは絶対に避けてください。隣に保護者の方が座り、必ず子どもの様子をチェック(モニター)してください。特に暑さの厳しい季節には汗のかき具合などを見て、必ず停車し、着替えや水分補給を多くし、休憩をいつもより頻繁に、十分にとってください。

Q5.チャイルドシートの使用期限はどのくらいでしょうか？
チャイルドシート本体の材質はプラスチックです。プラスチックは加水分解等で見えない亀裂など生じる場合があります。従い、チャイルドシートの使用期限は購入日より5-6年が目安です。一度でも落としたり、事故・衝撃にあった場合は必ず買い替えてください。もし購入より10年以上たつようであれば廃棄してください。(廃棄方法についてはP.20参照)

Q6.チャイルドシートはいつまで使用する必要があるのでしょうか？
法律では6歳未満の子どもへの着用が義務付けられていますが(2013年10月現在)車のシートベルトが正しく使えるまでは(身長140cm～150cm以上目安)、万一の衝突時に備え、必ずチャイルドシートを使ってください。よく小さすぎる子どもをジュニアシートに座らせていますがこれは間違いです。必ず体格に合うチャイルドシートを使用してください。下の５ポイントチェックを参考にしてください。

●５ポイントチェック

①お子様の背中は車のシートの背もたれにぴったりくっついていますか？(衝突時、お子様が深く座っていない場合、前席などにぶつかります)

②お子様のひざは車のシート先端の位置できちんと曲がりますか？（お子様はひざを曲げられる位置まで移動しますので、①に説明のぶつかる状態になります）

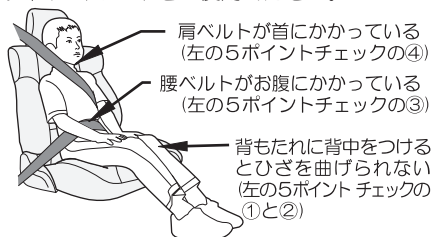
③腰ベルトはお子様の腰骨に位置していますか？(お腹にベルトがかかる場合は衝突時に内臓破裂の危険があります)

④肩ベルトはお子様の肩の真ん中に位置しますか？（首にベルトがかかる場合は衝突時に首の骨・神経を損傷する危険があります）

⑤お子様は車の移動中上記１～４の条件をずっと守っていられますか？（衝突はいつ起こるか予測できません。常にシートベルトを正しい位置におき、守られなければなりません）もし①～⑤のうち〝NO〞がひとつでもある場合は大人と同じようにシートベルトを使用するのは早すぎます。必ず背もたれつきまたは座部のみのブースターをご使用ください。なお体重18kgまでは５点式ハーネスつきのチャイルドシートをご使用ください。

※この図は間違っている装着の例です。

インフォメーション

●チャイルド・セーフティからのメッセージ

なぜチャイルドシートが必要なのか？

2000年にチャイルドシート着用が義務法制化されて、日本でもようやくチャイルドシートという言葉が一般に浸透してきました。法制化により1点減点されるからという危機感からチャイルドシートを購入なさった方も多いのではないでしょうか。しかし、その考え方は根本的に間違っていることはおわかりでしょうか。『チャイルドシートをなぜ使うのか？』という質問の答えは『減点されるから』ではなく、『車内の子どもの安全を考えるから』でなければならないのです。

衝突の恐ろしさを知ってください。

法制化されたにも関わらず、相変わらず『硬いシートに縛り付けてはかわいそう』『赤ちゃんが嫌がるから』『面倒くさいから』『ほんのちょっとの距離だから』と赤ちゃんを抱っこしたまま乗車しているお母さんがいますが、これは大きな間違いです。時速50kmの衝突時には赤ちゃんも体重の30倍の重さになります。10kgの赤ちゃんが突然300kgになったとしたら、お母さんの腕の力で支えられるわけがありません。

正しい装着は正しいチャイルドシート選びから。

万一の衝突時、車内の子どもの命を守る唯一の道具がチャイルドシートなのです。アメリカでは正しく装着していれば子どもの事故死は現在の4分の１に減少するといわれています。正しい装着をしているかどうかは子どもの命を守るために大変重要なポイントです。しかし、ChildSafety NPO(CS)の調査によると実際に正しい装着ができている車はゼロに近いのが現状です。その原因のひとつにお車と相性の良くないチャイルドシートを購入していることが挙げられます。車との相性が悪いと装着が困難になります。購入する際にご自分のお車との相性を確認していただきたいのです。できればチャイルドシートの専門家のいるお店でアドバイスを受けて購入していただくことがおすすめです。CSデータから推察しますと、すでにチャイルドシートを使用している方も、うちは大丈夫とは思わずに、なんらかの装着エラーが存在するとまずは考えていただきたいのです。

子どもを守るにはまずは親の教育から。

お子様を守る責任はお父さん・お母さんにあります。みなさん自身が車内のお子様の安全を守るための『正しい知識』そして『正しい装着方法』を知らなければならないのです。万一のことがあってから、後悔してからでは遅いのです。どうぞ車を発進する前、お子様を守るために１００％のことをしているかどうかの確認をしてください。驚くことに、大半のお父さん・お母さんは実は『ぐらぐらしているな』『何かおかしいな』と気づいているのです。少しでも不安があるようでしたら、先延ばしにせず、すぐに解決するよう努力してください。絶対に妥協せずに車内のお子様の安全を追及してください。われわれはみなさんを応援しています。

http://www.childseatsafety.com

●注意事項

・お子様を一人車内またはシート内に残さないでください。
・必ず車のシートベルトで装着してください。(ベルト、ロープ等では装着不可)
・事故や落下など、強い衝撃を受けた場合は使用を中止してください。
・車内ではお子様が乗っていない時も必ず本体を車に固定してください。
・お子様の為に長時間の連続運転は控えましょう。
・本品を改造して使用することはできません。
・障害を与える可能性のある荷物などはしっかり固定してください。
・カバーを外したままの使用(プラスティック本体のみ)はできません。
・片側スライドドア車では使用位置に注意してください。(ドア側への装着は後部席からの緊急時の脱出の妨げになることがあります)
・座席のリクライニングはできるだけ起こして使用ください。
・本革シート座席に取付けをすると取付け跡が残ることがあります。
・車のオーナーズマニュアルを併せて読んでください。
・取扱説明書は常に車検証と一緒に車内に保管してください。
・使用中、お子様から目を離さないでください。
・発進前に必ず装着確認をし、走行中の取付け操作は行わないでください。
・車のシートベルトはチャイルドシートの指定位置に必ず正しく通してください。
・安定、安全の為に車のシートとチャイルドシートの間に隙間を作らないでください。
・車のシートとチャイルドシートの間に物(座布団・本等)をはさまないでください。
・直射日光による車内温度の上昇は危険です。チャイルドシートを使用せずに車内に放置する場合はカバーすることをおすすめします。(特に固定・接続部位など火傷をさける為)
・ご購入時の箱、袋等で小さなお子様を遊ばせないでください。
・お子様の安全の為にも、使用方法をきちんと守ってください。

●お手入れ方法

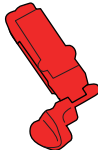
・カバーはすべて取り外せます。
・アイロン、洗濯機、乾燥機は使用しないでください。
・石鹸水をしめらせたスポンジ等で拭く、または30度以下の液温で手洗いしてください。
・中性洗剤、漂白剤等は使用しないでください。

●保管場所

・専用バックもしくは布製の袋等をかぶせて、直射日光の当たらない涼しい場所。
・お子様の手の届かない場所。

●廃棄方法

・お住まいの各自治体の指示に従い、処分、廃棄してください。(できるだけカバーなどの付属品は取外して本体プラスティック部のみで廃棄することをおすすめします)
・事故による処分の場合、本品に「事故品」等記入し、「再使用不可」である旨必ず明記ください。また車のシートベルトを自動車ディーラー等で点検することをおすすめします。

●注意事項

●取付け出来ない座席

・フロントエアバッグ装備座席
・車の進行方向に対して、横向き及び後向き座席
・3点式シートベルト以外の座席
・シートベルトに損傷のある座席
・シートベルトの短い座席
・オートマティックシートベルト（パッシブシートベルト）の座席
・3点式シートベルトで、上下とも巻取り式の座席
・助手席、前部中央席
・補助座席及び幼児専用座席
・座面の凸凹が極端な座席
・取付け時、運転に支障を及ぼす座席（前部中央席など）
・市販のスポーツシート（極端なバケットタイプ）
・タングストッパーが高い位置にある、もしくは本体と干渉のあるもの
・クッションが極端にやわらかい座席
・バックル位置が背もたれから10cm以上の座席
・バックル位置が座部から10cm以上の座席
・座席の奥行きが40cm未満の座席

●保証規定

1. 一度ご使用になった製品は、原則として交換できません。
2. 保証期間内（ご購入日より一年間）に正常な使用状態において、万一故障した場合には無料で修理いたします。
3. 保証期間内でも次のような場合には有料修理・有料交換になります。
   a）プラスチック部品の自然劣化による変色
   b）本体シート、カバー等の縫製部品の汚れや損傷
   c）お客様の誤使用、不当な修理や改造による故障及び損傷
   d）ご購入後の輸送、移動、落下等による故障及び損傷
   e）火災、地震、水害、落雷その他の天災地変による故障及び損傷
   f）本書と販売店の領収書（ご購入日記載のもの）がない場合
   g）本書のご提示がない場合
   h）一般家庭以外で、業務用やレンタル等でご使用され故障した場合
   i）有料修理の場合に要する運賃などの諸経費
4. 衝突事故など、一度でも強い衝撃を受けた製品の修理はできません。
5. 製造中止後の製品については必要部品の在庫がなくなった場合、修理できないことがあります。
6. 本書は日本国内においてのみ有効です。

※ 本書は再発行いたしませんので、ご購入の領収書（ご購入日記載のもの）と一緒に大切に保管してください。
※ 保証は、本書に明示した期間、条件の下において無料修理をお約束するものです。

●交換部品

バックルアセンブリー（アラーム付き）	ロッキングクリップ（外付け後向き専用）（青色）
ロックオフデバイス（前向き専用内蔵）	新生児用パッド（後向き専用）
インナークッション（後向き専用）※機種により形状は異なる	角度調整レバースプリング

交換部品等のお求めについては当社テクニカルサポートにご連絡ください。保証規定(P. 21参照)に従い対応させていただきます。なお、生産中止による在庫切れ、また予告なしにデザイン・仕様変更などございますのでご了承ください。

●製品情報

モデル名： FERRARI TYPE 505
適応体重： 後向き：新生児～10kgまで
前向き：10kg～18kgまで
参考年齢： 新生児から4歳ぐらいまで
商品サイズ： 59cm(H)x44cm(W)x52cm(D)
商品重量： 約7.0kg
製造国： フランス
安全基準： ECE R44/04

●個人情報保護について

ユーザー登録カードの個人情報は、商品に関する変更など（商品リコール等）が生じた際の対応や、お客様へのお知らせなどの目的以外には使用いたしません。当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは下記までお願いします。受付時間はAM10：00～PM5：00(土日祝日,夏季･冬季休業期間を除く)となっております。

デイナー・インターナショナル
テクニカルサポート
〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-13-108
TEL. 03(5447)1915 / FAX. 03(6408)0232
e-mail：info@danar.jp